

5 - 1 学習指導の重点

(1) 研究主題

主体的に考え、豊かに表現し、共に考えを深める子どもの育成
～「やってみよう」「つないでいこう」が広がる授業づくり～

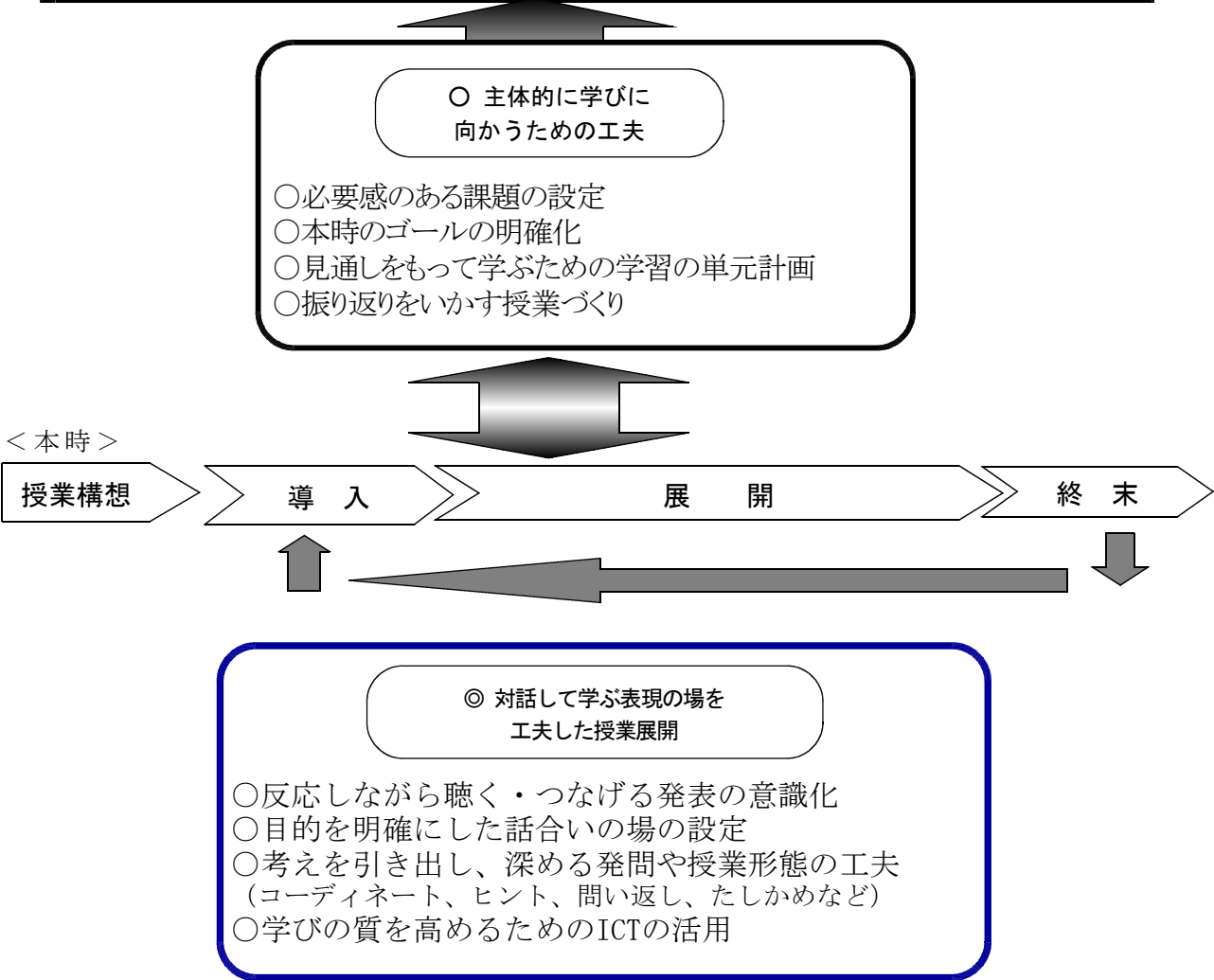
(2) 目指す子どもの姿

- 主体的に課題を解決しようとする子ども
- 自分の思いや考えを大切に、相手に伝えることができる子ども
- 学んだことをこれからの生活に生かそうとする子ども

(3) 学習指導の具体的重点

主体的・対話的な学びを促す授業改善

「やってみたい」という導入の工夫と、課題解決に向けた授業展開



5－2 教科指導

「国語科」

1 研究主題

言葉による見方や考え方を働かせ、互いに学び合いながら、自分の思いや考えを深める子どもの育成

2 本年度の重点

- (1) 話や文章等の言葉に着目して課題を設定できるよう、学習活動や発問等を工夫する。
- (2) 言葉についての自分の学びを自覚し、次の学びへつなげることができるように、評価の場面や方法を工夫する。
- (3) 主体的な課題解決に向けて、目的に応じて図書館機能やICTを活用する場면을計画的に位置付ける。

「社会科」

1 研究主題

社会的な見方・考え方を働かせ、社会生活に生かそうとする子どもの育成

2 本年度の重点

- (1) 社会的な事象から問いを見だし、見通しをもって課題解決に向かうことができるように、単元構成や授業展開を工夫する。
- (2) 社会的な見方・考え方を働かせて課題を追究し、情報や既習の知識を分類・整理したり関連付けて話し合ったりする活動の充実を図る。
- (3) 学習した内容を生かしながら多面的・多角的に考察し、社会的な事象の特色や相互の関連を自分の言葉でまとめ、表現する活動の充実を図る。

「算数科」

1 研究主題

数学的な見方・考え方を働かせ、問題解決に向けて学び合う子どもの育成

2 本年度の重点

- (1) 見通しをもち、問題解決に主体的に取り組む事ができるように導入場面を工夫する。
- (2) 「聴いて・比べて・つなげる」学び合いを通

して思考や表現の拡張や深化を図る。

- (3) 思考の深まりの実感につながるような振り返りを工夫する。

「理科」

1 研究主題

科学的に考え、主体的に問題解決に向けて学び合う子どもの育成

2 本年度の重点

- (1) 自然事象に対する気付きや疑問を基に、見方・考え方を働かせて解決する学習課題を設定する。
- (2) 既習事項や生活経験等から予想や仮説を予想し、予想や仮説が妥当な場合に得られる観察や実験をする活動の充実を図る。
- (3) 科学的に妥当性のある考えがもてるよう、結果の比較・分析から考察する活動の充実を図る。

「生活科」

1 研究主題

活動や体験を通して身近な生活に関わる見方・考え方を働かせ、互いの気付きを交流して学び合う子どもの育成

2 本年度の重点

- (1) 「試す」「見通す」「工夫する」などの創造的に考える学習活動を保証する授業展開を工夫する。
- (2) 児童の気付きに共感し、問い返したり、価値付けたりするなどの支援を工夫する。
- (3) 自分の気付きを振り返ったり、互いの気付きを交流したりする活動の充実を図る。

「音楽科」

1 研究主題

音楽的に対する感性を働かせて学び合い、音楽と豊かに関わろうとする子どもの育成

2 本年度の重点

- (1) 知覚したことと感受したことを、関わらせながら捉えることができる授業展開を工夫

する。

- (2) 言語活動と音楽活動を適切に行き来させる手立てを工夫する。
- (3) 多様な音楽活動を体験することにより、それぞれの音楽文化のよさや楽しさ、価値などの理解を深める指導の充実を図る。

「図画工作科」

1 研究主題

表現や鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせることができる子どもの育成

2 本年度の重点

- (1) 創造活動への見通しをもたせるために、学習の中心となる考えを引き出しながら、学習課題やめあてを設定する。
- (2) 主体的に表現を試す、考えを交流する、多様な表現に触れるなど対象等を造形的視点で捉える時間を確保したり、場を工夫したりする。
- (3) つくり出す喜びを実感できるように振り返りの仕方を工夫したり、内容や時間のまとまりを見通して評価場面を設定したりする。

「体育科」

1 研究主題

課題解決のために習得した知識や技能を活用し、主体的に取り組もうとする子どもの育成

2 本年度の重点

- (1) 学習する意義や目的を明らかにし、学習課題を提示することで、児童が学習の流れを見通すことができるようにする。
- (2) 自己の変容を実感できるよう、スモールステップで課題を設定する。
- (3) ICT機器を活用することで、互いの運動を観察して助言したり、チームで作戦を相談したりすることができるようにする。

「家庭科」

1 研究主題

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、よりよい生活に向けて学び合う子どもの育成

2 本年度の重点

- (1) 生活の営みに係る見方・考え方を働かせながら、考え、表現できる授業展開を工夫する。
- (2) 生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる授業展開を工夫する。
- (3) 児童同士で協働したり、意見を共有して互いの考えを深めたりする場を設定する。

「外国語活動・外国語科」

1 研究主題

相手意識や目的意識をもち、伝えたい内容を考えながら主体的に学び合う子どもの育成

2 本年度の重点

- (1) コミュニケーションで活用できる外国語の基礎的な知識・技能を段階的に身に付けさせる指導を工夫する。
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じた授業展開を工夫し、伝えたい内容や必要な表現を考えて伝え合う言語活動の展開を図る。
- (3) ティーム・ティーチングやALTを活用し、習得した知識・技能を実際のコミュニケーションに生かすよさを実感する機会を設定する。

5-3 道徳教育

(1) 重点目標

- ①よく考えて判断し、適切に行動しようとする子どもを育てる。
- ②目標をもち、粘り強くやり通そうとする子どもを育てる。
- ③思いやりの心をもち、温かく励まし合う子どもを育てる。
- ④生命の尊さを知り、命あるものをいとおしむ子どもを育てる。

(2) 児童の実態

明るく活動的で、休み時間には体育館やグラウンド、遊具などで元気に遊んでいる児童が多い。合図とともに遊びを止め、使った道具をきちんと片付けるなど、約束事は守ろうとする素直さをもっている。また、縦割り班活動や学校・地域の行事に進んで参加し、友だちに優しい言葉をかけて励ます姿や、登校班や縦割り班で上級生が下級生を思いやる様子も見受けられる。学校教育目標「夢に向かって ふみ出す一歩 ～やさしく かしこく たくましく～」を受けたこれまでの取組により、自分で目標に向かって前向きな気持ちで取り組もうとする意欲が育ってきている。児童会やPTAでは、あいさつ運動に継続して取り組んできており、進んであいさつをすることのよさを理解し、児童が少しずつ増えている。

しかし、衝動的に自分本位の行動をとってしまう児童の他に、適切な対応ができずに周りの児童と良好な関係を築くことや、物事に対する努力の継続に対する取組を苦手としている児童がいる。また、自分に自信がもてず、自己有用感の低い児童も少なくない。そこで、今年度も学校教育目標に向けて、児童一人一人が自己の生き方への考えを深め、周囲の人とよりよい人間関係を築いていくためにも、自らの課題を見つけて実践することができる力を高めていくことが必要であると考え。

(3) 研究主題

- 自分との関わりにおいて考え、共に学び合うことを通して、自己の生き方について考えを深めようとする子どもの育成

(4) 具体的な手立て

- ① 各教科や行事を通して最後までやり通すことの大切さを実感させ、達成感や成就感を味わわせる。
- ② 「価値理解」「人間理解」「他者理解」を促す発問等を取り入れることにより、道徳的価値を理解できるよう工夫する。
- ③ 自分自身を振り返ったり、目標を見付けたりする時間や場を設定することにより、自己の生き方について考えを深めることができるよう工夫する。
- ④ 発問や資料の提示等を工夫し、他者と対話したり協働したりして様々な考えに触れる機会を設定することにより、多面的・多角的に考えることができようにする。
- ⑤ 豊かな体験の場を充実させ、互いに思いやったり助け合ったりするよさを体験させたり、自然や生き物を慈しむことの大切さを実感させたりする。
- ⑥ 学校報や学年報、懇談等で子どもたちの様子を家庭や地域に知らせ、道徳教育の啓発を図るとともに、連携を進める。

5-3 (2) 全体構造



教育関係法令等

- ・日本国憲法
- ・教育基本法
- ・学校教育法
- ・学習指導要領

・秋田県学校教育の指針
・南の要覧・大仙教育メソッド

学校・地域社会の実態

- ・大正11年に高閣小学校と合併
- ・平成13年に松倉小学校と合併
- ・平成16年12月 現校舎落成
- ・現在128名の児童数
- ・大仙市北部に位置している
- ・農村部と住宅地が共存している
- ・地域愛が強く、学校に協力的

道徳教育についての啓発活動	地域と連携した実践活動
<ul style="list-style-type: none"> ・学校報の発行 ・学年報等の発行 ・PTA会報「たまたがわ」の発行 ・授業参観 ・学年学級懇談 ・学年PTA行事 ・家庭訪問 ・通知票 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動 ・ゆりの木の集い ・子ども会行事 ・PTA講演会 ・スキー学習 ・地域行事への参加(四ツ屋まつり、地区民運動会、廃品回収)

生徒指導

- ・日常の人間な触れ合いの中で、共感的理解と敢然とした対応に基づく指導・援助に努め、共感的な人間関係の確立を図り、児童一人一人に集団の中での存在感を感得させるとともに、他を思いやる心と態度を身に付けさせる。
- ・発達段階に応じた具体的な安全指導を充実させ、児童の安全に対する意識を向上させるとともに、実践的な態度を育てる。

特別活動

- ・集団の一員としての自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする自主的実践的な態度を育てる。

学級活動	一人一人を認め合う集団活動を通して、児童の自主的・実践的な態度を育てる。
児童会活動	自主的・自治的に諸活動を計画し、実践していくことを通して学校生活を豊かにしていこうとする態度を育てる。
クラブ活動	異年齢の児童同士で協力し共通の興味・関心を追求する集団活動に自主的・実践的に取り組むことを通し、個性の伸長を図り、集団における行動の仕方や課題解決、自己実現に関わる資質・能力を育成する。
学校行事	体験的な活動を通して集団への所属感を深め規律ある行動をしようとする態度を育てる。
全校集会	集会活動を通して、所属感や連帯感を養う。 ・和やかな雰囲気の中で、集団の規律や基本的な行動様式ができるようにする。

体験的な活動

- ・野菜、植物の栽培
- ・集団登校
- ・あいさつ運動
- ・フィールドワーク
- ・修学旅行
- ・1年生を迎える会
- ・6年生を送る会
- ・地域クリーンアップ

学校教育目標

夢に向かって ふみ出す一歩
～やさしく かしこく たくましく～

目指す子ども像

- (1) やさしく (豊かな心)
互いに思いやりの心を伝え合うことのできる子ども
- (2) かしこく (確かな学力)
主体的に学び、自分の考えをもち、表現できる子ども
- (3) たくましく (健やかな心身)
志をもち、粘り強く挑戦する子ども
- (4) 地域と共に (地域貢献)
ふるさとを愛し、共によく生きようとする子ども

研究主題

主体的に考え、豊かに表現し、共に考えを深める子どもの育成
～「やってみよう」「つないでいこう」が広がる授業づくり～

道徳教育目標

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う

道徳教育重点目標

- よく考えて判断し、適切に行動しようとする子どもを育てる。
- 目標をもち、粘り強くやり通そうとする子どもを育てる。
- 思いやりの心をもち、温かく励まし合う子どもを育てる。
- 生命の尊さを知り、命あるものをいとおしむ子どもを育てる。

低中高学年の指導の重点

低学年	<ul style="list-style-type: none"> ○よいことと悪いことを区別し、よいと思うことを進んで行うこと。 ○自分のやるべきことをしっかりと行うこと。 ○身近な人に温かい心で接し、親切にすること。 ○生きることの素晴らしさを知り、生命を大切にすること。
中学年	<ul style="list-style-type: none"> ○よく考え、正しいと思うことは自信をもって行うこと。 ○自分で決めた目標に向かって、粘り強くやり抜くこと。 ○相手のことを思いやり、進んで親切にすること。 ○生命の尊さを知り、生命あるものを大切にすること。
高学年	<ul style="list-style-type: none"> ○自律的に物事を判断し、責任のある行動をすること。 ○自ら目標を立て、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと。 ○だれに対しても思いやりの心をもち、相手の立場に立って親切にすること。 ○生命が多く、生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること。

特別の教科 道徳 の研究主題と達成のための手立て

自分との関わりにおいて考え、共に学び合うことを通して、自己の生き方について考えを深める子どもの育成

- ① 各教科や行事を通して最後までやり通すことの大切さを実感させ、達成感や成就感を味わわせる。
- ② 「価値理解」「人間理解」「他者理解」を促す発問等を取り入れることにより、道徳的価値を理解できるよう工夫する。
- ③ 自分自身を振り返ったり、目標を見付けたりする時間や場面を設定することにより、自己の生き方について考えを深めることができるよう工夫する。
- ④ 発問や資料の提示等を工夫し、他者と対話したり協働したりして様々な考えに触れる機会を設定することにより、多面的・多角的に考えることができるようにする。
- ⑤ 豊かな体験の場を充実させ、互いに思いやったり助け合ったりするよさを体験させたり、自然や生き物を慈しむことの大切さを実感させたりする。
- ⑥ 学校報や学年報、懇談等で子どもたちの様子を家庭や地域に知らせ、道徳教育の啓発を図るとともに、連携を進める。

年間指導計画

学級における指導計画

特別の教科 道徳

全教育活動で行われる道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的発展的な指導によって、それらを補充・深化・統合し道徳的価値の自覚を深め、道徳的実践力を育成する。

人間関係の指導の方針	学級経営の指導の方針	環境整備の方針
一人一人が自己有用感・存在感をもてるような工夫	(学級担任が記入)	道徳的実践意欲を高めるような心にびびく環境づくりの工夫

社会的要請

科学技術の発展、経済の成長
交通・情報・通信システムの整備
生活水準の向上、倫理観の欠如
社会性の不足、自立の遅れ

豊かな心をもち、たくましく生きる人間の育成

教職員や保護者の願い

- ・元気なあいさつができる子ども
- ・進んで物事に取り組む子ども
- ・優しく、思いやりのある子ども
- ・粘り強く、たくましい子ども
- ・生命を大切にできる子ども
- ・地域を愛する子ども

児童の実態と課題

- 明るく元気。
- 目標に向かって前向きに生活。
- 集団活動での協調性。
- 地域行事に進んで参加。
- ▲努力の継続や根気強さ。
- ▲自信がもてず、低い自己有用感。
- ▲メディアの利用時間やトラブル。

各教科等

	<ul style="list-style-type: none"> ・学び合うことに喜びを見出し、自ら課題を発見し、その解決に向けて主体的に粘り強く取り組み続ける力を育てる。 ・各教科のねらいを達成し、自然のすばらしさや人間の優しさやふれ、美しいものに感動する心を育てる。
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活における人との関わりで、伝え合う力、思考力や想像力を培う。 ・言葉がもつよさを認識するとともに言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい社会を考え、主体的に問題解決しようとする態度を養うとともに、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚などを養う。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・数学的活動の楽しさに気づき、学習を振り返ってよりよく問題解決しようとする態度、算数で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の事物・現象についての理解を図り、問題解決の力を養うとともに自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度を養う。
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な人々、社会・自然を自分との関わりで捉え、自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を養う。
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を想像しようとする態度を養い、豊かな情操を養う。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭生活を大切にできる心情を育み、家族の一員として、生活をよりよくしようとする実践的な態度を養う。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・運動に親しむとともに、健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
総合的な学習	<ul style="list-style-type: none"> ・探求的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

5 - 4 (1) 総合的な学習の時間

(1) 目標

- ① 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。
- ② 実社会や実生活の中から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- ③ 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

(2) 今年度の重点

- ① 児童の主体性や意欲を引き出す課題設定および指導計画の工夫
- ② 各教科で得られた資質・能力を総合的に活用・発揮することができる学習活動の工夫

(3) 具体的施策

- ① 各学年で、子どもの発達段階に応じた課題設定の仕方を工夫することにより、課題意識をより高め、意欲的な学習への取り組みを持続できるようにする。
- ② 自分の課題に見通しをもたせ、直接触れる・創作する・調べるなどの体験的な活動を多く取り入れることにより、子どもたちが主体的に課題解決に取り組む態度を養う。
- ③ 粘り強く課題解決に向かうことができるよう、各教科等で育成された資質・能力を総合的に働かせる学習を、探究の過程に位置付ける。
- ④ 探究的な学習のよさを理解できるよう、自らの学びを意味付けたり価値付けたりして、事故の変容を自覚する振り返りの場面を学習の過程に位置付ける。
- ⑤ 子どもたちの多様なニーズに対応できるような地域の教材や学習環境を活用すると共に、校内の学習環境やT T、地域の人材の有効活用に努める。

5-4 (3) 各学年の年間計画

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
3年生	四ツ屋はかせになろう (35h)						大仙市のひみつを探ろう (35h)					
4年生	大曲の花火博士になろう (20h)			秋田県のいいところを紹介しよう (30h)			十歳式を祝おう (20h)					
5年生	保呂羽山宿泊学習を 成功させよう (15h)			四ツ屋の仕事② (25h)			最上級生にむけて (10h)					
	四ツ屋の仕事①～米作りに挑戦～ (20h)											
6年生	はあと修学旅行 ～岩手・宮城の魅力を見付けよう～						自分の未来をえがこう (20h)					
	人に優しく～福祉の心～ (30h)											

5-5 校外学習年間予定

4月末現在

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	その他
4月	【教科・領域等】月日 ・行き先／見学場所等	【生】 12日(金) ・サケの稚魚放流式					【健・安】26日(金) ・交通安全教室 (大曲中央自動車学校)
5月			【社】 16日(木) ・市内巡り			【遠・集】30日(木)31日(金) ・修学旅行 岩手・仙台方面	
6月		【生】 12日(水) ・給食センター・図書館 ・まちたんけん		【社】 7日(金) ・県南環境保全センター 【総】 26日(水) ・花火工場	【遠・集】19(水)20(木) ・保呂羽山少年自然の家	【社】 6日(木) ・埋文セ／払田柵	
7月							
8月							
9月	【生】 25日(水) ・モリボの里(太田)	【生】 25日(水) ・横手ふるさと村					
10月					【理】 30日(水) ・斉内川及び玉川流水見学		
11月			【社】 19日(火) ・大曲消防署 【社】 7日(木) ・スーパーマーケット		【社】 21日(木) ・新聞社・テレビ局 【総】 12日(火) ・お米販売	【総】 5日(火) ・職業体験(花火工場他)	
12月			【社】 5日(木) ・大仙警察署 【社】 19日(火) ・南外歴史館				
1月							【体】 23日(木) 中高学年スキー学習 ・たざわ湖スキー場
2月			【社】 12日(水) ・南外歴史資料館			【外】 18日(火) ・大曲中学校体験訪問	【体】 30日(木) 低学年スキー学習 ・大台スキー場
3月							